

概要

【目的】

相談支援従事者等研修（以下「研修」という。）を、円滑かつ効果的に行えるよう、研修カリキュラム等について検討する。

【年間活動方針】

- ・研修の種類ごとに作成したプログラムや教材について、全体を俯瞰して再整理を行い、令和5年度の研修に反映する。
- ・地域での実習結果を把握・検証した結果を区市町村にフィードバックすることで、次に活かせる仕組みについて検討する。
- ・新たな相談支援専門員制度の意図を踏まえ、研修に携わる人材の選出の考え方や循環の仕組みについて検討する。

【委員構成】五十音順、◎委員長、○副委員長

	氏名(敬称略)	所属
1	神作 彩子	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 大田区立障がい者総合サポートセンター
2	○北川 悦子	一般社団法人ソラティオ 荒川区障害者基幹相談支援センター
3	◎佐藤 繭美	法政大学現代福祉学部教授
4	杉田 泉	特定非営利活動法人江戸川区相談支援連絡協議会 江相連相談支援センター
5	高江洲 幸男	社会福祉法人もくば会 八王子地域生活支援室高尾
6	中島 美穂子	社会福祉法人マインドはちおうじ マインドはちおうじ相談支援センター
7	○中村 尚子	品川区八潮障害者計画相談支援事業所
8	花形 朗子	社会福祉法人ときわ会 地域生活支援センターあさやけ
9	○蛭川 涼子	特定非営利活動法人自立生活センターSTEP えどがわ
10	○藤田 博文	特定非営利活動法人自立生活センター日野
11	安井 一裕	一般社団法人しぶや糸をつむぐ会 コネクトしぶや

【活動状況】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、第1回から第3回までは、Web会議で実施

	日程	議事
第1回	5月25日	検討会年間活動方針及び計画案について
第2回	7月28日	相談支援従事者指導者養成研修（国研修）受講報告について 各研修チーム活動報告について
第3回	11月30日	サービス管理責任者等指導者養成研修（国研修）受講報告について 各研修チーム活動報告について
第4回	3月8日	年間のまとめ及び引継ぎ事項の確認

【検討体制】

- ・全体を俯瞰するために、課題別のチームに分かれて検討を進めた。

検討チーム名等	委員(敬称略)	回数
研修内容の整理チーム	蛭川、杉田、高江洲、中島	6回
実習チーム	藤田、神作、花形、安井	6回
人材育成チーム	中村、北川、佐藤	4回

活動成果1 研修の種類ごとに作成したプログラムや教材について、全体を俯瞰して再整理

- ・研修はそれぞれが独立しているのではなく、初任者研修から主任研修まで相談支援専門員としてどうレベルアップするかのストーリーがある。
- ・ストーリーに沿って研修の中身を整理するため、東京都の相談支援従事者研修の人材育成ビジョンである「私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver.7」の枠組みを用いて、各研修の目的、方法論並びにツールの洗い出しを行った。
- ・初任者研修から主任研修まで共通で使用できるツールとして、基本情報グラフィック（別紙1）、地域資源調べシート（別紙2）、チームアプローチの理解を深めるために架空事例を用いた資料（別紙3）、東京都の研修のしくみを完成させ、それぞれのツールの意図を研修受講者に伝えるための説明文をまとめた。

活動成果2 各区市町村の相談支援体制づくりに役立つ実習説明会の実施と検証

- ・令和2年度から始まった地域実習の円滑な実施に向けて、窓口となる区市町村職員に研修の目的や実習の意図を理解していただけるよう「実習受け入れガイド」を作成すると共に、説明会を実施した。
- ・説明会は、実習の対応をしていただく区市町村職員と区市町村の選定した相談支援専門員（以下「実習対応者」という。）を対象とし、研修で使用しているツールの説明や実習対応の具体的なイメージを持てるようデモンストラクションを行った。
- ・説明会に参加できなかった実習対応者が後から視聴できるよう、また、説明会に参加した場合も繰り返し復習できるよう、録画した説明会の動画をインターネット配信した。
- ・研修の実施後、実習対応者にアンケートを実施した。

活動成果3 「私たちが目指す相談支援専門員の姿」のバージョンアップ

- ・「私たちが目指す相談支援専門員の姿」のバージョンアップに取り組んだ（別紙4）。
- ・「相談支援専門員とは何か」がわかりやすく伝わる部分、相談支援専門員が持ち続ける姿勢や土台となるものを示す部分、相談支援専門員の人材育成の仕組みの部分の三部構成でまとめることを検討した。
- ・これまでの「専門員の姿」に登場していなかった、「共生社会」、「意思決定支援」、「官民協働」等のキーワードを打ち出した。
- ・人材育成の仕組みの部分をもとめるにあたり、内容の整理チームと合同で打合せを行ったことで、全体を多角的に見直すことができ、文言の整理することができた。

活動成果4 その他

- ・厚生労働省主催の相談支援従事者指導者養成研修会（6月及び3月）及びサービス管理責任者等指導者養成研修専門コース別研修部分（9月）に参加し、得た情報を第2回、第3回検討会で共有した。
- ・東京都相談支援従事者研修の講師人材の循環と地域の中核人材となる主任相談支援専門員と推薦条件について検討した。

来年度に向けて

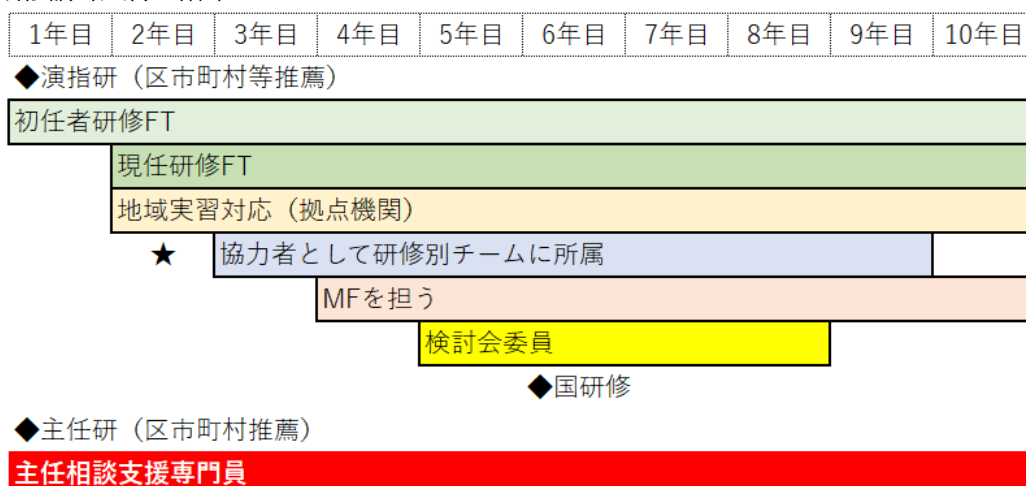
【引継ぎ事項1 検討会の検討体制の見直し】

- ・今年度の課題別の検討チーム編成は、研修にしばられることなく課題ごとに深く、研修間の連動性についても考えることができた半面、研修づくりに関わっていなかったメインファシリテーターに更新作業を依頼するという研修づくりの方法はあまりうまく行かなかった。
- ・来年度は、検討会委員が課題別と研修別に複数所属するチーム編成を提案する。
- ・演習で使用している架空事例は情報が古くなっているため、刷新を含め検討していく。
- ・研修別チームは協力者にも参加してもらい、無理なくスライドしていく仕組みを目指す。

<令和5年度検討体制案>

研修種別 課題別	初任者研修	現任研修 事例作成	主任研修	演習指導者養成 研修	専門コース別 研修
内容整理					
実習					
人材育成					

<研修講師人材の循環イメージ>



区市町村推薦のイメージについて第4回検討会で意見をいただく

【引継ぎ事項2 実習対応者（区市町村及び拠点機関）のバックアップ】

- ・初任者研修及び現任研修の実習対応者を対象にした説明会を実施し、参加者からも一定の評価を得た。区市町村職員の異動への対応や新たな拠点機関も協力できるよう、説明会の実施を継続する。
- ・受講者の準備不足によって実習対応者の負担とならないような工夫を検討する。
- ・区市町村説明会と合わせて、実習対応者向けの動画を配信する。
- ・ファシリテーターが演習グループで得た区市町村の実習対応に関する情報をフィードバックしてもらい、今後活かせる仕組みを作る。
- ・受講者が多く対応に苦慮している区市町村がある一方、小さい区市町村ならではの負担感もあるので、地域の実情に合わせたバックアップについて検討する。

【引継ぎ事項3 研修補助教材の必要性の検討】

- ・研修の時間以外に受講者が繰り返し学習できるような視聴覚教材の作成について検討する必要がある。
- ・各検討チームで補助教材が必要な箇所を意識しながら活動し、結果を持ち寄る。
- ・研修に必要な補助教材という視点だけでなく、現場に出てから学び直すことのできる教材の要否について検討する。

補助教材作成の方向性が示せるよう第4回検討会でご意見をいただく。

- ・動画作成の可能性についての検討

【引継ぎ事項4 私たちが目指す相談支援専門員の姿の更新】

- ・今年度、バージョンアップを図ったが、当初予定していた相談支援専門員を知らない人にもわかりやすく相談支援専門員の役割を伝える部分が完成しなかった。来年度以降、内容について検討し、行政職員等に理解していただく資料とする。

Aさん()歳代 男・女 B市(区)在住

見た目・性格

できること (ADL・IADL など)

好きなこと (興味・関心など)

苦手なこと・嫌いなこと

本人の想い

家族の想い

障害福祉サービス

ジェノグラム・エコマップ

週間予定

週間以外の手配

障害・疾病 (障害者手帳など)

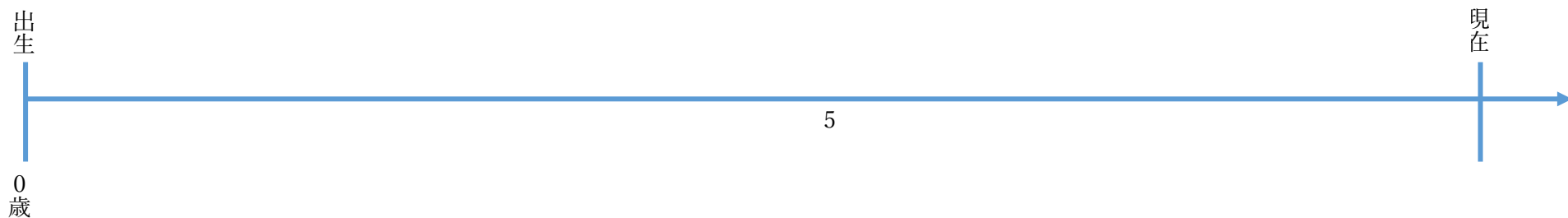
住まい・環境・経済状況

医療状況 (通院歴など)

その他 (必要な情報など)



【生活歴】



事前課題 地域の状況及び地域資源

受講決定番号		区市町村		氏名	
--------	--	------	--	----	--

【地域(区市町村)の概要】 (令和5年 月現在)

区市町村名		面積		人口	人	世帯数		世帯
-------	--	----	--	----	---	-----	--	----

【障害福祉における区市町村の理念(障害者計画等)】

【医療や保険情報】

【相談支援の状況】 (令和5年 月現在)

手帳所持者			自立支援医療 (精神通院、更生、育成)	難病等その他の把握している障害者の数	相談支援の利用者数		相談支援の(暫定)カバー率 #DIV/0! %
身体障害者	愛の手帳	精神保健福祉			計画相談	計画相談外	
人	人	人	人	人	0人	0人	

障害者総合支援法(サービス等利用計画)			児童福祉法(障害児支援利用計画)		
対象者数	作成率	うちセルフプラン率	対象者数	作成率	うちセルフプラン率
人	%	%	人	%	%

【相談支援事業所等の状況】 (令和5年 月現在)

	設置運営形態	箇所数	職員数	担当件数(実数)	
				(人) 業務職員数	(件) 計画相談 計画外
基幹相談支援センター	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 未設置				
地域生活支援事業の相談支援	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> その他				
指定特定相談支援事業所	/				
指定障害児相談支援事業所					
指定一般相談支援事業所(地域移行)					
指定一般相談支援事業所(地域定着)					
自立生活援助事業					
児童発達支援センター	<input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 未設置				
地域生活支援拠点等	<input type="checkbox"/> 面的 <input type="checkbox"/> 拠点 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 未整備				

【地域の特徴】

特に良いところは?

【あったらいいな】

こんな制度や仕組み、社会資源(フォーマル・インフォーマル)があったらいいなと思ったことを3つ以上挙げてください。

【協議会の状況】

1. 設置済み 2. 未設置

形態(組織構成)や実施状況等

【基幹相談支援センターの状況】

1. 設置済み 2. 未設置

【地域生活支援拠点等の状況】

【相談支援のネットワーク】

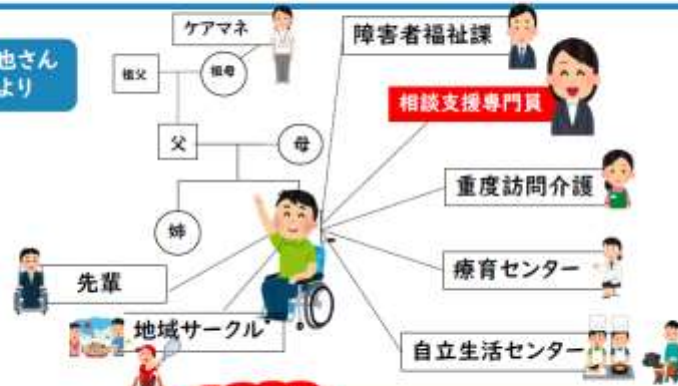
サービス名	事業所数
居宅介護	
重度訪問介護	
行動援護	
同行援護	
移動支援	
生活介護	
短期入所	
共同生活援助	
施設入所支援	
自立訓練(宿泊型)	

サービス名	事業所数
自立訓練(機能訓練)	
自立訓練(生活訓練)	
就労移行支援	
就労継続支援A型	
就労継続支援B型	
就労支援センター	
就労定着支援	
地域活動支援センター	
児童発達支援	
放課後等デイサービス	

初任研修 チームアプローチ

サービス担当者会議の開催が、本人の多様なニーズに答えるための多領域・多職種によるチームづくりにおいて重要なプロセスであることを理解する。

佐藤和也さん
事例より



キーワード

繋がる
担当者会議を開催できる
チームアプローチの必要性を理解する

主任研修 チームアプローチ・多職種協働

日頃の地域づくりにおける多職種協働を検証し、多職種協働の構造や過程、意義等を再確認し、地域づくりにおける多職種協働をつくる・促す・伝えることができるようになることを目指す。



キーワード

困難事例へのフォローアップの実践及びモデリング
コミュニティワークの実践及びモデリング
多職種連携・協働できる土壌づくり

注) モデリングとは
実践例の提示

現任研修 チームアプローチ

チームアプローチ(多職種連携)の理論と連携を検証する方法等を理解する。連携における自身の考え方や課題、自身の強み等について気づきを得、明日からのチームアプローチ(多職種連携)に活かせるようにする。

佐藤和也さん
事例より



キーワード

チームアプローチの成熟
インフォーマル、地域資源を活用した連携ができる
地域づくりへの意識と参画

私たちが目指す相談支援専門員の姿 ～障害当事者である本人の生活を支援するために～

東京都で活動する相談支援専門員の

態度と姿勢は…

- 1) 一人ひとりの「暮らし」を知るために、障害当事者の声を聴く
- 2) 本人の思いや将来に向けた願いを受け止める
- 3) 本人とともにあらゆる社会資源を活用し、創り出す
- 4) 障害者ケアマネジメントの理念を具現化する役割を持つ
- 5) 本人自身が力を発揮できるようエンパワメントを支援する
- 6) まだ出会っていない、支援を必要とする人々の存在を想像する
- 7) 地域に入り込む力を養い、地域共生社会の一翼を担う
- 8) 地域で人々が交流し、学び、育ち合う中心になる
- 9) 相談支援専門員のエンパワメントのプロセスをたどりながら人材育成にも貢献していく



相談支援と地域

東京という地域



自分の地域



相談支援専門員は、利用者一人ひとりのニーズは地域のニーズでもある事と知っている

- 1) 地域を出発点とし、地域の強みと課題を把握して、ニーズに向き合う
- 2) 地域（自立支援）協議会を地域課題解決のツールとして活用する
- 3) 福祉にとどまらず他領域とのつながりを意識して、チームアプローチを推進する
- 4) 自分たちの地域の「官民協働」を意識して、体制整備や人材育成の質を高めていく
- 5) ソーシャルワークを基盤として、地域を耕し、育ちあい学びあう地域をつくる
- 6) 共生社会の実現を目指す



【国が考える地域や立場の違いによる相談支援専門員の役割】

第3層：地域における相談支援体制の整備や社会資源の開発など

主な担い手⇒基幹相談支援センター、地域（自立支援）協議会

第2層：一般的な相談支援

主な担い手⇒市町村相談支援事業

第1層：基本相談支援を基盤とした計画相談支援

主な担い手⇒指定特定相談支援事業

価値



- 「本人中心」 本人の思いや願いに寄り添い、本人中心の支援を行う
- 「社会モデル」 障害を社会の状況・環境との関係の中で理解し、とらえる
- 「権利擁護」 本人が持っている力を信じる
- 「エンパワメント」 人としての存在と尊厳を守り、あらゆる人権を尊重する
- 「地域に根差す」 フィールドとする東京都及び区 市町村の地域性の把握と、地域福祉の向上に努め続ける
- 「意思決定」 本人の意思を形成し、表明する機会を創出し、ともに考えあうことで決めることを導き出す

【相談支援専門員の土台となるもの】

知識



- ・ 東京都における障害福祉の歴史
- ・ 本人が暮らす地域とその社会資源の理解（インフォーマル資源にも目を向けている）
- ・ 本人を理解するための、障害についての知識
- ・ ケアマネジメントプロセスの基本的理解（インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリングを適切に実施できている）
- ・ 法制度や福祉サービスの知識（文章を読み込み、解釈する力）

技術



- 1) 本人と信頼関係を構築できる
- 2) 基本的な面接技術に習熟している
- 3) ニーズを的確に捉えることができる
- 4) 本人の意思決定を支援する
- 5) わかりやすい計画を立案できる
- 6) サービス提供者や行政等と協働する力がある（交渉・調整）
- 7) 個別支援で得た地域課題を協議会等のネットワークを通じて積極的に発信・共有できる
- 8) 地域で人々が交流し、育ち合う働きかけができる（ファシリテーション、スーパービジョン）
- 9) 地域で共有した課題に対応できる社会資源を作り出す

[東京都の研修のしくみ ～相談支援専門員もエンパワメントのプロセスをたどる～]

